

# 夢は実現させるためにある！

校長 狩野清美

「夢を持つ」ということと、「夢を実現させる」ということは、違う。

昨年度、各部活動の大会や3年生の大学入試を終えた後、「あと一步だった」とか「もう少しだった」という話を何度か耳にした。私は生徒が元気に頑張る姿を見ることが大好きだ。頑張りさえすれば、それでいいのだと思うこともある。しかしその一方で、生徒の夢をもっと実現させてやらなければだめだという気持ちが、この一年、生徒の様子を見ていて強くなってきた。

「あと一步」とか「もう少し」という経験にも意味はある。しかし、夢を実現させるということからみると、手放しでは喜べない。生徒は、夢を実現させることの積み重ねによって人生の築き方を学ぶと考えているからだ。人生というものは、知らぬ間に形ができるものではなく、自分の意志で築くものではないだろうか。

部活動にしても進路選択にしても、最初の一步は生徒が夢を持つことから始まる。その夢は大きければ大きいほどよい。しかし、夢が夢のまま終わってしまってはいけない。どんなに実力や能力があってもそれを伸ばすことをせず、夢を実現させることができなければ、自信を持って次のステップに進むことはできない。

「夢は実現させるためにある」という考えは教員になってしばらく経ってから懐くようになったものだ。もちろんすべての夢が叶うということはない。むしろ叶わない夢のほうが多だろう。しかし、部活動や進路選択などに関する夢の大半は、やり方と努力によっては実現可能なものが多いと思う。

「部活動で関東大会に出場したい」とある生徒が思ったとしよう。その実現は簡単なことではない。が、不可能なことではない。「・・・大学に入って・・・の勉強をしたい」。これも全国大半の大学について実現可能だ。

問題は夢を持ってからの本人の行動である。夢は懐いているだけでは単なる「あこがれ」でしかない。問題は、夢の実現に向けて一步步進んでいけるかどうかということだ。部活動や進路選択だけでなく、高校卒業後の生き方も同じである。

まずは夢を持つこと。等身大の夢ではなく、一つステップアップした夢を持ってほしい。そして、大切なことはそこから先！その夢に向かって進んでいくことなのだ。

夢を実現させるために必要なことは何か？頑張ることや努力も必要である。簡単にはあきらめない強い意志も大切だ。しかし、今の前南生が身につけなければならないことは単なる努力や意志の強さではない。それは「夢の叶え方」なのだ。言い換えれば「人生の築き方」でもある。夢を実現させるためにはいくつかの条件、あるいはコツのようなものがあると思う。生徒諸君にはそれを高校時代の体験をとおしてつかんでほしいのだ。

今回の「進路の手引き」の作成にあたっては、進路指導部の先生方、体験記を寄せていただいた卒業生のみなさん等のご協力とご尽力に感謝申し上げます。この「進路の手引き」が生徒の夢実現に向けての貴重な資料、さらには「夢の叶え方」のヒントとなることを祈念し、巻頭の挨拶といたします。